

## 突発性難聴を発症し入院治療を行った患者の退院後の生活状況調査

西病棟 10 階

○上口葵 染澤直美 津田恭子

坂井純子 小川外志江

key word : 突発性難聴 生活 退院指導

はじめに

突発性難聴とは、突然に発症する感音性難聴であり原因不明の疾患である。それまで社会生活を送ってきた人が突発的に聴力を失うことになるため、患者の身体的、精神的負担は大きい。発症年齢は 50～60 歳代を中心に小児から高齢者まで幅広い。当院では突発性難聴と診断された患者は入院し、心身の安静とステロイドの点滴投与やビタミン剤などの内服治療を行う。経過は人により様々であるが、「おおよそ 3 分の 1 は完治し、3 分の 1 は回復するが難聴を残し、3 分の 1 が治らずに終わる」<sup>1)</sup>とされている。治療後も聴力が改善しなかった患者は退院後も難聴を受け入れて生活していかなければならない。

当病棟では退院指導として、少しずつ難聴を受け入れていくよう説明しているが、ルーチンな治療を行った後退院するため実際に患者が退院後どのような生活をしているのか十分把握できず、具体的な退院指導を行えていないのが現状である。突発性難聴について治療中や治療終了後の苦痛や不安についての研究はあるが、退院後の生活におけるストレスや不安についての研究はない。そこで本研究は、突発性難聴で入院治療を行った患者が、退院後に難聴を持ちながらの生活におけるストレスや困っていること、工夫していることなどを明らかにし、今後の退院指導に役立てたいと考えた。

### I. 研究目的

突発性難聴を発症して入院治療を行った患者の退院後の生活状況を明らかにし、効果的な退院指導を行なうための一助にする。

### II. 研究方法

#### 1. 研究デザイン：因子探索研究

2. 対象者：平成 16 年 5 月～平成 19 年 11 月に突発性難聴のため、当科にて入院治療を行なった患者 27 名のうち、研究参加に同意の得られた 18 名(回収率 66.7%)。年齢は 20 歳以上 70 歳未満であり、両側性に病変がある患者、糖尿病または中耳炎等を合併している患者は対象外とした。

3. 調査期間：平成 19 年 11 月～平成 20 年 1 月

4. 調査方法：郵送による留置式の質問紙調査

5. 調査内容：基本属性として、性別、年代、同居人数、職業、突発性難聴を発症した時期の 5 項目を選択回答式にて設定した。自由記述式の質問として、現在の聴こえづらさや気になる症状、入院治療を行って初めての感想、退院後の生活で困ったこと、工夫したこと、退院前に看護師から聞いたかったこと、その他意見や質問の 6 項目を設定した。また、日本語版 HHIA [Hearing Handicap Inventory for Adults 聴こえのハンディキャップ質問用紙<sup>2)</sup> 以下 HHIA とする] 社会面 12 項目、心理面 13 項目からなる計 25 項目(難聴によって患者が負っているハンディについて、日常生活面と心理面の両方を評価できるもの)を使用した。

6. 分析方法：選択回答式の質問については、単純統計を行った。自由記述式の質問については、研究者間で話し合い、質問項目ごとにまとめた。

7. 倫理的配慮：金沢大学医学倫理委員会の倫理審査にて承認を得た。対象者には研究依頼文にて、研究の主旨、目的、方法等を説明した。研究参加は自由意志であり同意しない場合でも不利益は一切生じないこと、一旦同意した場合でも申し出によりいつでも中止でき、その場合は得られた情報は全て破棄すること、研究中に得られた情報は匿名化し参加者のプライバシーを侵害することのないように厳重に保管し研究終了後に破棄すること、研究対象者を特定できないようにした上で研究の成果が公表される可能性があることを伝え、書面にて同意を得た。

### III. 結果

対象者 18 名の性別は男性 9 名(50%)、女性 9 名(50%)であった。年代は 20 代 1 名(6%)、30 代 3 名(17%)、40 代 4 名(22%)、50 代 2 名(11%)、60 代 8 名(44%)であった。同居人数は独居が 3 名(17%)、同居が 15 名(83%)であった。職業は有りが 13 人(72%)、無しが 5 人(28%)であった。突発性難聴発症後経過年数は、1 ヶ月～3 年 2 ヶ月であった。

自由記述式の質問の、【現在の聴こえの具合や気になる症状】については、「以前より聴こえるが聴こえづらさはある」、「患側から話しかけられると聴こえない」、「どの方向から声、音が聞こえてくるのか戸惑うことがある」、「大勢の中の会話、騒音の中の

会話が聴こえづらい」、「声の質(高さ)によっては聞きにくい」、「ほとんど聴こえづらさはないが体調がすぐれない時は耳鳴、めまいが起こる時がある」、「耳鳴が気になる」、「時折めまいがある」、「多少あるが気にならない」、「補聴器をつけている」という回答であった。

【入院治療を行って初めての感想】については、「点滴の薬液による血管痛は苦痛だった」、「点滴のため夜トイレに行きたくなり眠れず、また便秘にもなり体調があまりよくないのもありつらい時もあった」、「点滴をしてすぐに聴力が回復すると思っていたのでなかなか回復せず絶望に感じていた」、「入院中はあまりよくならなかったが今はよくなって安心して」、「好転したとは思われない」、「先生から50%ほど回復していると言われたが実感できなかった」、「聴力がおちていくのが止まりよかったと思う」、「外来診察後すぐに入院し治療を行ってもらって大変感謝している」、「もっと長く在院し良く治療すべきだったと思う」という回答であった。

【退院後の生活で困ったこと】については、「今でもめまいが起こることがあり職場に迷惑をかけていると感じる」、「めまいがあったので自転車、自動車にしばらく乗れなかった」、「何度も聞きなおすことがあり相手がいやな顔をする」、「電話が聞き取りづらい」、「静かな時に耳鳴がし、慣れるまでに困った」、「講演会での話、小さい声の音が聞きづらい」、「日常生活では支障ない」という回答であった。

【退院後の生活で工夫したこと】については、「無理はせずおかしいと感じたら早めに休む」、「睡眠不足やストレスに注意する」、「家族には少し大きな声と聴こえる側での話の協力を得ている」、「ストレスをためないようにと言われたが、社会人になると必ずついてくるものでどうしようもないかもしれない」、「耳鳴が気になるので1人ではいるときはTVや音楽を流していた」、「車の運転には特に注意している」、「イヤホンやヘッドホンをつけないようにした」、「テレビの音声はイヤホンで聴いている」、「ビタミン剤を飲んだり、鍼、灸など治療した」、「あの時は大変なストレスをためていたが入院した時、先生たちに話をきいてもらいホッとした」という回答であった。

【退院前に看護師から聞いたかったことや教えてほしかったこと】については、「再発の状況、データ等があれば聞いておきたかった」、「退院後に気を付けていかなければならないことを聞いたかった」、「時間が経てば良くなっていく人もいること、ゆったりと治していくよう話してもらえたことは安心につながった」、「一般的にどれくらいで聴力が回復するのか」、「もしもの時のことを具体的な例をあげて教えて欲しかった」、「退院できるといってもまた聴こ

えにくくなるのではという不安はあったので安心して退院できるようにさらに配慮してもらえるとうれしいと思う」、「治療法で以前の患者さんが試みられたことで良くなった例があったら教えて欲しい」、「入院中に聞いたが人によって回復の度合いが違うのではっきりした返事がもらえなかった」という回答であった。

【その他意見や質問など】については、「病院からの話だけでは先行きが不安だったためインターネットをみて今後の見通しを考えていった」、「職場復帰するか辞めるかで相当悩んだのでそういう判断ができるだけの情報提供も必要だと思う」、「原因不明なのが不安である」、「見た目は健康な人と変わらないので病状の深刻さが他人には理解されずつらかった」、「耳鳴、めまい、難聴の症状も本人にしかその程度が分からないので、そのつらさが理解されずつらかった」、「人によっては再発する場合もあるのか」、「いつになったら完治するのか、聴力が戻るのかというところが不安」、「治療や予防の方法について確実なものが出ることを願っている」、「一般的にどのような時に発症するのか、どのようなことに気を付けて生活していけばよいか知りたい」という回答であった(表1)。

HHIA については、社会面『誰かにささやき声で話しかけられた時は聞き取りにくいですか?』の質問で「はい」が14人であった。心理面『聴こえづらさのために、イライラすることがありますか?』で「はい」が10人、『聴こえづらさのために他の人よりも不利だと感じますか?』で「はい」が10人であった(表2)。

#### IV. 考察

##### 1. 【日常生活の不都合】

退院後も残っている身体的な症状として難聴、耳鳴り、めまいがあげられ、体調がよくない時に症状が悪化する人もいた。難聴については、聴こえる方向や騒音の中の会話、音の高さや質によって聴こえにくいことがあり、何回も聞きなおすことで周囲に迷惑をかけていると感じていた。また、これらの症状は本人にしかそのつらさがわからないため周囲に理解されずつらかったという意見や、HHIA の心理面の質問で『聴こえづらさのためにイライラすることがある』や『他人よりも不利だと感じる』の項目に「はい」と答えた人が10人と多いことから、患者は退院後も残っている症状によって周囲の人と関わっていく上での精神的な苦痛があると考えられる。対象者は成人期の社会活動が盛んな年代であり、周囲との関わりの中で不利益を感じていることは社会生活を送る上で大きな苦痛である。

##### 2. 【退院後の生活における工夫】

退院後に残っている難聴や耳鳴り、めまいなどの

症状に対し、患者はストレスや疲れをためない、睡眠をしっかり取るなど症状悪化を防ぐ工夫や、耳鳴りに対して一人の時には音楽をかけるなど気を紛らす工夫、めまいに対して車の運転に注意するなどの二次災害を起こさないようにする工夫をしていることがわかった。また家族には少し大きな声と聴こえる側での話の協力を得ているという意見もあった。難聴などの症状が残っている患者は、周囲と関わる際に精神的な苦痛を感じているため、家族など周囲が本人の苦痛な状況を理解し、患側から話しかけない、症状がひどいときは無理をさせないなどの配慮が必要と考えられる。

一方、ストレスをためないようにしようとしても、社会人になると必ずついてくるものでどうしようもないという意見もあった。対象者は成人期であり、社会的にも充実し活動性の盛んな時期であるが、そのために家庭や社会においてストレスの多い時期でもある。このことから周囲の理解が必要である。

### 3. 【患者指導】

患者は治療終了後も難聴などの症状が残ったまま退院となる場合が多く、様々な不安を抱えたまま退院後の生活を送っている。突発性難聴は原因不明で確実な治療法がなく、聴力回復の見込みや再発の可能性についてははっきりとしたデータがないため情報不足による不安を感じている。また日常生活での注意点について知りたいという意見もあり、今回のアンケート結果を参考に、ストレスをためない、睡眠不足に注意する、家族や周囲から協力を得て大きめの声で健側から話しかけてもらうといった工夫や注意点を患者に伝えることが必要である。細川らも「患者が知りたい情報を知りたい時に、退院後の生活に基盤を置いた情報提供を行うことで、患者が抱える生活上の困難や、将来への不安を軽減することにつながると考える」<sup>9)</sup>と述べており、入院後早期から患者の全体像や疾患に対する思い、受容の程度を把握し、その患者の求めている情報を提供することが重要であると考えられる。また「あの時は大変なストレスをためていたが、入院した時に先生達に話を聴いてもらいホッとした」という意見もあり、ストレスの原因を解決することはできなくても医療者に話を聴いてもらい理解してもらうことで安心につながり、ストレスが軽減されると考えられる。

当院の突発性難聴患者は、緊急入院ですぐに治療開始となる。また入院期間の短縮の傾向もあり、現状では入院中に患者の思いを十分に引き出せていないのではないかと考えられる。今年度から当院は7:1看護となり看護提供時間を増やせると考えられるため、退院前だけでなく入院中から受け持ち看護師を中心として、患者とじっくり関わる時間を作っていくことが重要である。また主治医にも病状などを説

明してもらおう場を作るよう看護師から働きかけることも必要である。

また「時間が経てば良くなっていく人もいること、ゆったりと治していくように話してもらえたことは安心につながった」という意見もあり治療後に聴力が改善していなくても焦らず経過をみていくよう声かけすることは不安の軽減につながると考えられる。細川らも「不安を抱えながらも治療を乗り切った患者に対して、ねぎらいの言葉をかけるなど、【聴力改善の如何を問わず、治療を終えたことに対する達成感】をより自覚できるような関わりをすることで、患者が【現実を冷静に受け止め、『聞こえない自分』を新たな自分と捉えて淡々と元の生活に戻る】ことを促進するかかわりにつながると考える」<sup>9)</sup>と述べており、今回の研究もこれと同等の結果となった。

今回の研究では、対象者が少ないため、病状が改善した人と改善しなかった人での比較をしておらず、両者の間で生活状況に違いが出てくる可能性がある。

### V. 結論

1. 日常生活における不都合として、難聴や耳鳴、めまいがあげられた。
2. 患者は耳鳴、めまいの症状悪化を防ぐために睡眠不足やストレスに注意していた。また難聴に対しては、家族の協力を得て大きな声で健側から話しかけてもらっていた。
3. 患者は再発や回復の見込みについての不安があり、それらのデータや日常生活での注意点などの情報を求めている。入院後早期から患者の全体像や疾患に対する思いを把握し、患者が求めている情報を提供することが必要である。また日常生活の注意点として、ストレスや睡眠不足に注意する、家族や周囲に大きめの声で健側から話しかけてもらうよう協力を得るといった指導を行うことが必要である。

#### 引用文献

##### 1) 難病情報センター

[http://www.nanbyou.or.jp/sikkan/084\\_i.htm](http://www.nanbyou.or.jp/sikkan/084_i.htm)

2) 加我君孝・萩原昭治・古屋慶隆他：加齢者用聴こえのハンディキャップ質問紙を用いた老人性難聴の社会面と心理面の評価 - CMI との比較一、耳鼻と臨床, 37(5), p1126, 1991.

3) 細川裕子・角南直美：聴力改善を期待して治療に臨んだ突発性難聴患者の思い、日本看護学会論文集、成人看護Ⅱ, p64, 2005.

#### 参考文献

1) 大島あゆみ・宮中めぐみ・泉キヨ子他：老人性難聴をもちながら地域で暮らす高齢者の体験の意味、日本老年看護学会誌 10(1), p 53-61, 2005.

表 1. 記述式アンケート調査結果

現在の聴こえ具合や気になる症状	聴こえづらさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前より聴こえるが聴こえづらさはある</li> <li>・患側から話しかけられると聴こえない</li> <li>・どの方向から声、音が聞こえてくるのか戸惑うことがある</li> <li>・大勢の中の会話、騒音の中の会話が聴こえづらい</li> <li>・声の質(高さ)によっては聞きにくい</li> </ul>
	耳症状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体調がすぐれない時は耳鳴、めまいが起こる時がある</li> <li>・耳鳴が気になる</li> <li>・時折めまいがある</li> <li>・補聴器をつけている</li> <li>・多少あるが気にならない</li> </ul>
入院治療を行ってみての感想	治療による苦痛	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点滴の薬液による血管痛は苦痛だった</li> <li>・点滴のためか、夜トイレに行きたくなり寝れず、便秘にもなり体調がよくないのもありつらい時もあった</li> </ul>
	治療効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点滴をしてすぐに聴力が回復すると思っていたので、なかなか回復せず絶望に感じていた</li> <li>・入院中はあまりよくならなかったが、今はよくなって安心している</li> <li>・好転したとは思わない</li> <li>・先生から50%ほど回復していると言われたが、実感できなかった</li> <li>・聴力がおちていくのが止まり、よかったと思う</li> <li>・外来診察後すぐに入院し、治療を行ってもらって大変感謝している</li> <li>・もっと長く在院し、良く治療すべきだったと思う</li> </ul>
退院後の生活で困ったこと	退院後の生活で困ったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今でもめまいが起こることがあり職場に迷惑をかけていると感じる</li> <li>・めまいがあったので自転車、自動車にしばらく乗れなかった</li> <li>・何度も聞きなおすことがあり相手がいやな顔をする</li> <li>・電話が聞き取りづらい</li> <li>・静かな時に耳鳴がし、慣れるまでに困った</li> <li>・講演会での話、小さい声の時間が聞きづらい</li> <li>・日常生活では支障ない</li> </ul>
退院後の生活で工夫したこと	ストレスをためない工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無理はせずおかしと感じたら早めに休む</li> <li>・睡眠不足やストレスに注意する</li> <li>・ストレスをためないようにと言われたが、社会人になると必ずついてくるものでどうしようもないかもしれない</li> <li>・家族には少し大きな声で聴こえる側の話の協力を得ている</li> </ul>
	耳症状に対する工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耳鳴が気になるので1人でいるときはTVや音楽を流していた</li> <li>・車の運転には特に注意している</li> <li>・イヤホンやヘッドホンをつけないようにした</li> <li>・テレビの音声はイヤホンで聴いている</li> <li>・ビタミン剤を飲んだり、鍼、灸など治療した</li> </ul>
退院前に看護師から聞きたかった事や教えてほしかったこと	注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退院後に気を付けていかなければならないことを聞きたかった</li> <li>・もしもこういう症状があらわれたら、というもしもの時のことを具体的な例をあげて教えて欲しい</li> <li>・以前の患者さんが試みられたことで、良くなった例があったら教えて欲しい</li> </ul>
	再発、回復の程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再発の状況、データ等があれば聞いておきたかった</li> <li>・一般的にどれくらいで聴力が回復するのか</li> <li>・入院中に聞いたが、人によって回復の度合いが違うのではっきりした返事がもらえなかった</li> </ul>
	不安の軽減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間が経てば良くなる人もいること、ゆったりと指していくようにと話してもらえたことは安心につながった</li> <li>・退院できるといってもまた聴こえにくくなるのではという不安があったので安心して退院できるようにさらに配慮してもらえたらと思う</li> </ul>
その他意見や質問など	知りたい事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院からの話だけでは先行きが不安だったため、インターネットをみて、今後の見通しを考えていった</li> <li>・原因不明なのが不安である</li> <li>・人によっては再発する場合もあるのか</li> <li>・いつになったら完治するのか、聴力が戻るのかというところが不安</li> <li>・治療や予防の方法について確実なものが出ることを願っている</li> </ul>
	意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場復帰するか辞めるかで相当悩んだので、そういった判断ができるだけの情報提供も必要だと思う</li> <li>・一般的にどのような時に発症するのか、どのようなことに気を付けて生活していけばいいか知りたい</li> <li>・あの時は大変なストレスをためていたが、入院した時に先生たちに話をきいてもらいホッとした</li> <li>・見た目は健康な人と変わらないので病状の深刻さが他人には理解されずつらかった</li> <li>・耳鳴、めまい、聴覚の症状も本人にしかその程度が分からないので、そのつらさが理解されず辛かった。</li> </ul>

表 2. 日本語版 HHIA : アンケート結果

n=18

		はい	いいえ
社会面	1. 聴こえづらさのために、自分の希望よりも電話の回数が少なくなりましたか?	0	18
	3. 聴こえづらさのために、人を避けるようになりましたか?	1	17
	6. 聴こえづらさのために、人の集まりには参加しにくいですか?	4	14
	8. 誰かにささやき声で話かけられた時は、聞き取りにくいですか?	14	4
	10. 聴こえづらさのために、友人や親戚や隣の家の人(他の部屋)を訪ねるのが苦手ですか?	2	16
	11. 聴こえづらさのために、町内(施設内)の集まりに出席する回数が減りましたか?	0	18
	13. 聴こえづらさのために、友人や親戚や隣の家の人(他の部屋)を訪ねる回数が減りましたか?	0	18
	15. 聴こえづらさのために、テレビやラジオを聴くのが困難ですか?	3	15
	16. 聴こえづらさのために、出かける回数が減りましたか?	0	18
	19. 聴こえづらさのために、家族など身近な人に話かける回数が減っていますか?	1	17
心理面	21. 聴こえづらさのために、家族や友人と外出した時に苦痛を感じますか?	2	16
	23. 聴こえづらさのために、テレビやラジオを聴く回数が減りましたか?	3	15
	2. 聴こえづらさのために、知らない人に会うと戸惑いますか?	3	15
	4. 聴こえづらさのために、イライラすることがありますか?	10	8
	5. 聴こえづらさのために、家族へ話かけるときためらいますか?	1	17
	7. 聴こえづらさのために、無口になりましたか?	1	17
	9. 聴こえづらさのために、他の人よりも不利だと感じますか?	10	8
	12. 聴こえづらさのために、神経質になりましたか?	6	12
	14. 聴こえづらさのために、家族など身近な人と口論をしてしまうことがありますか?	3	15
	17. 聴こえづらさのために、何か起こった時に動揺しますか?	1	17
	18. 聴こえづらさのために、一人になりたいことがありますか?	5	13
	20. 聴こえづらさのために、自分の生活や社会活動が制限されたり、妨げられていると感じますか?	1	17
	22. 聴こえづらさのために、気分が暗くなることがありますか?	2	16
	24. 聴こえづらさのために、他人に話かけた時に不愉快に感じることがありますか?	2	16
	25. 聴こえづらさのために、友人たちと一緒にいる時に、疎外感を感じますか?	2	16

単位: 人